# 倉沢里山を愛する会 会報

ENJOY アリスの丘 風の丘 Farm
NEWS LETTER

倉沢里山を愛する会 会報
アリスの丘ファーム
NEWS LETTER No.24.
2004年1月1日発行

会　　長　峰岸純夫
代表幹事　川崎　明
事 務 局　田村裕介
東京都日野市百草698-6
TEL/FAX（042）592-5859
Email: alice-fm@mail.hinocatv.ne.jp
http://www.hinocatv.ne.jp/~alice-fm

## 私とボランティア

髙木　直樹

ひと言でボランテイアといっても様々なものがあります。私は今、多摩市の緊急災害ボランテイアの会に参加しています。目的は人命救助、災害復旧のお手伝い等です。年数回の講習と訓練があります。メンバーは７０～８０名で常時３０～４０名が参加します。阪神淡路大震災を教訓に結成されました。

さて、我が愛する「倉沢里山を愛する会」には２年前に参加させていただきました。こちらのボランテイアは里山を守り、しいては地球環境を守ることができ、普段忘れかけている自然と接し、気持ちよく「癒されて」います。年々会員数も増え１８０名を超えたとのこと、幹事の皆様や事務局の並々ならぬご苦労があってのことと思います。

今、私が住んでいる多摩市和田の住宅地に隣接する緑地を保全・管理するボランテイアの会を立ち上げようとしています。百草団地に近く、通称「なな山」といいます。倉沢里山は比較的平坦ですが、なな山は小山ですがやはり山という感じです。昨年から有志と年数回下草刈をしています、山にはキンラン、ギンランその他希少植物がみられます。

多摩市もやっと重い腰をあげ「みどりの基本計画」を発表しグリーンボランテイアを育てています。しかし、私は会の立ち上げには常に倉沢里山をモデルにしています。田村ご夫妻にもいろいろアドバイスを頂いています。今年早々に立ち上げを予定していますが財政面、その他もろもろの不安をかかえています。これからも「倉沢里山を愛する会」のみなさまにはお世話になると思いますが宜しくお願い致します。

そして将来、このように里山を愛する他の地域のみなさんとも連携して交流できたらと思います。どなたかニュースレターにも書かれておりましたが八王子、高幡、日野、多摩、稲城と山はつながっています。

ボランテイアとは、辞書によると志願者、奉仕者等と訳されていますが、使命感とか「何かやらなくては」と堅く考えず、自分のできる範囲で無理なくやれればよいのではないでしょうか？　私もこのように考えていますが、そのためには一定のメンバーが必要です。最近倉沢のイベントには若い人やカップルも参加していますが、災害ボランテイアにも新しい会の立ち上げにも若い人がおりません。もちろん、若い人たちは現役で仕事を持っているので仕方ないとしても、高校生・大学生の参加者が少しでもいたらいいのにと思います。このことから、新しい会の活動計画に小学生を対象に自然教室を開催し、植物や昆虫観察を体験してもらい、自然に触れ将来自然を守ろうという気持ちをもってくれたらと思っています。今年も宜しくお願いします。

## 里山の植物誌（23）

### エノキダケほか（菌類）

今回は植物ではありませんが里山のキノコです。１２月の作業日。萌芽更新樹利用の長椅子の元にエノキタケが生えていましたが、それが別名ナメタケともいわれる野生の姿とは容易に信じてもらえませんでした。店頭に並ぶ茸の中では、これほど野生と栽培物に違いのあるのは見当らないから無理もありません。雪の下で凍ったまま越冬するのもあるとか。それが見られたら感動するでしょう。

私がエノキダケを倉沢で見るのは初めてで、当日の作業は前日の雨で濡れた枯れ枝や枯葉集めはしんどかったけれど、このような条件の日に山仕事に参加できたのはよかったと思っています。この日はシロキクラゲ・アラゲキクラゲ・びっしり付いたタマキクラゲなども見られました。私を含めてキノコの検索に熱中し、その結果が毒キノコであろうと、確信を持って同定できた瞬間の満足感が好きな友だちが、この会にも何人かいます。　（峰岸立枝）

# 林を抜けると畑があった

松崎　孝子

高い木々の間より　ちらちら差し込む木洩れ日と林を抜ける風の音。
人が歩いて踏みしめた落ち葉の道を歩いて行くと暖ったか温もり伝わりました。
林を抜けると　畑があって、列なる畝と　黒い土。
畑の畝が切れるころ　わらぶき屋根が見えてくる。戸口に立ってる祖母がいて　「ようく来たね」と手を振りました。
畦道 山道 やぶの道。どこへ行くにもひたすら歩き楽な術などありません。

山が近くに見える時　南風（はえ）や東風（こち）が吹く時も
それから　それから　まだまだあって　山の際（は）近くに出てくる雲も　大事な大事な天気予報。 明日の天気を占って　今日の畑仕事を急ぎます。
ここには都会のようなものはないけれど　でっかい自然がありました。くる日もくる日も山の中。
いつも自然と向き合って　たくさん教わることがありました。

これは私が幼少の頃、母の故里で一時期を過ごした時の思い出の一部です。おそらく、これが私の原点であり、今倉沢に足を運ぶ動機になったと思います。

１１月２３日、町田の「図師小野路歴史環境保全地域」を訪ねてみて、まさに私の原点がありました。そして、私は二つの大切なことを教わりました。ここ小野路では、一度は忘れ去られていた昔からの農業土木の技術を復活させて、周囲の都市化の流れの中で、行政の力も使いながら色々な方策を組み合わせて、この里山を昔のままの姿で守ろうとしていること。また、この保全に多くの貴重な労力のあることを知らない人たちの、「保全地域」と「公園」とを混同した勝手な行動で環境が壊されるということも知りました。

行政は、通り一遍の保全を唱えるだけでなく、その保全のために実際に努力し、汗を流している人たちを、さまざまな形で支援していくべきだと思います。

それにしても見るのも聞くのも耐えがたい事件の多い中、この地で穏やかでほっとする時を与えて頂き、また明日の力が湧いてきます。

（絵も筆者）

# 堆肥で循環の実践を

川崎　　明

先日、アリスの丘からもうもうと煙をたなびかせているのを見ました。雑草や野菜の残渣が山と出ると、燃やしたくなるのはよくわかりますが、近所の住人には迷惑がかかっているかも知れません。

有機・無（減）農薬栽培にこだわっている方が多いと思いますので、この際畑にコンポスタを置いて堆肥作りに挑戦してみませんか。小さいものならは1500円位から、大きいものなら数千円のものまで色々あります。日野市から補助をもらえる制度もありますが、たとえば多摩境駅の近くにある「C」店などのホームンターに行くと、手軽に、またびっくりするくらい安く手に入れることができます。始めは原料がかさばる事を考えると、１つは大きいもの、量が減ってきたら小型のものへと、２つ置くのがうまく行くようです。

少し専門的に言うと、微生物が有機物（残渣や落ち葉）をエサとし分解し腐植したのが堆肥です。大きく分けて、切り返しを何回もし好気性の菌（微生物）を活かした昔からの手法と、空気を好まないため切り返しをしない嫌気性の菌を使う方法があります。どちらにも長所と短所があり農業書を賑わしています。

時間と労力をいとわず好気性の方法をとるか、切り返す必要が無い嫌気性をとり、空気を好まず且つ有用な菌を積極的に入れてあげるかです。ＥＭ菌やアスカマンが後者に当たります。ＥＭ菌はホームセンター等で売っていますし、以前本紙でも紹介したアスカマンは小袋の製品が事務局においてあり、900円でお分けしています。時間はかかりますが、いろいろ試してみるのも面白いと思います。

いずれにしても、適切な水分にして、菌が活発に働く条件を保つことが重要です。生の残渣は過度な水分になり易いので、コンポスタ置き場の水はけには注意しましょう。

堆肥作りは大変ですが、環境循環型の菜園にとって非常に重要な手法です。ボランティア活動では、里山の雑木林から出る落ち葉を堆肥にする作業もしていただいていますが、今年の夏あたりから出来上がった堆肥（腐葉土）を会員の皆さんにお分けする仕組みを検討しています。それでも「ふんだんに」というわけには中々いかないと思いますので、自作の堆肥にも是非トライしてみてください。

**投句**

鷹舞うや谷戸に小さき藁ぼっち
むささびの椎の木太き社の家（藤野澪子）

# 林のものがたり

吉田美智子

秋たけなわの１０月の土曜日、林の中で朗読する機会に恵まれた。畑の道へと通りから入ると、なんとも云えないよい香りが漂っていた。土の匂い、木の匂い、草の匂い。車道から一寸入っただけなのに、そこはとても懐かしい所のように思われた。日頃の慌しさから離れて、さながら桃源郷のようだった。倉沢里山を愛する会の皆様の想いが胸にしみた。

最初にバイオリンの演奏があり、樹木の中でその調べは、なんと素敵に響いたことか。野外での盛大なお食事会が始まり、私も「あんず林のどろぼう」を朗読させて頂いた。朗読とは、作品の趣を、聞き手の心へ届ける作業である。自然に包まれ、心豊かな方々に囲まれて、その日の舞台は、私にとってとても幸せな経験であった。今まで読んだどこよりも、この物語に相応しい場所に思えた。倉沢里山を愛する皆様方、ありがとうございました。

林の中での朗読を聴かせて頂いたのは初めての経験でしたが、「あんず林のどろぼう」は倉沢の雰囲気にぴったりの作品でした。いつしか読み手の豊かな表現力に引き込まれ、里山に爽やかな文学の香りが漂いました。

## 正統いも煮で満足・満腹

１２月のイベントは雑木林の落ち葉掃きと、恒例となったいも煮会は６０名の参加。安孫子さん、金子さんの指導で里芋の洗い方からこだわった山形正統のいも煮。子供のころ見た記憶がある、木の樽と板を使って芋を洗う方法（写真）です。ダシは鰹節、昆布、煮干でとって、里芋も牛肉もたっぷり入って、出来上がりは寸胴の大鍋からあふれそう。おかげで最後に投入すべく準備してあった葱があまり入れられず、それだけがちょっと心残りでした。でも、林の中でしっかり労働した後のお昼は、いも煮と薪のおこげご飯、共同畑産大根のビール漬け、サラダや収穫祭の時に作った干し柿にブランデーケーキと、豪華な食卓にみんな大満足・大満腹。

これで2003年の活動を無事に終えましたが、草刈や落ち葉掃きの範囲が広がりました。来年度の活動計画は、作業を重視した組み立てになりそうです。

# 手づくり干し柿

中尾ひろえ

今年もアリスの丘の駐車場脇の柿が色づいた。田村はる子さんの子どもの頃からある柿の木の一つで、これはつるっこと呼ばれる渋柿だ。そのままでは食べられない。アルコールで渋抜きするか、干し柿にする。

平安の時代、干菓子として珍重された記録がある。干すことで渋が抜けて甘味が増し、保存も可能となる。冷蔵技術のなかった先祖伝来の知恵である。

１０月１８日の収穫祭の準備の日に大勢の手を借りてもいだ柿を、当日皮をむいたら４個の大ザルいっぱいになった。炭焼きが終わったら、団地４階にある私の事務所のベランダで干すことになっていたのだが、イベントの最後の方で雨が降り始め、片づけが終わった頃には本降りになってしまった。まだ残っていた築地さんに助っ人を頼み、事務局の車で運んだ。

はる子さんの指導で、まず数センチの小枝を挟んだ麻紐の「つるし輪」を２０個ほどつくった。あとは２メートル弱程度に切った麻紐に２０個ばかりの干し柿を捲きつけて「つるし輪」にかけて干すという作業である。これにも上手下手があるが慣れもあるだろう。もう一つ、皮むきの準備作業の時、柿のへたの上の小枝がなく、へただけになってしまったものは爪楊枝を刺してつり手をつくるという作業が必要になった。へたの上の小枝をＴ字型に残して皮をむくことがコツであることも知った。

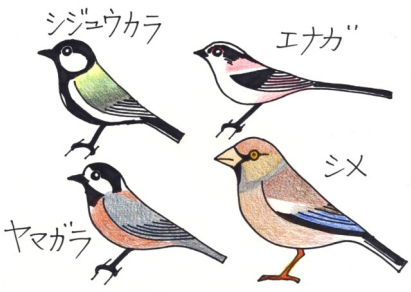
ベランダいっぱいにつるされた干し柿は、日光にキラキラと輝いた。概算で４００個ほどだろうか。見事な干し柿風景を見た団地の人からカラスに食べられないようにとの忠告をいただいた。早速シートを買ってきてかけた。２週間ほどで干し柿らしくなったが、次は小さな羽虫がまといつきはじめた。今年は暖かい日が続いたためか、虫害を考えて部屋に取り込んだ。数日後、はる子さんに来ていただき一緒に小枝をはずし、小袋に詰め直して冷蔵庫で保管した。

１２月１３日の落ち葉掃きの時に盛り付けて皆さんに食べていただいたところ大好評であった。

太陽と風の力と若干の人手で加工された賜物である。まだ残っている干し柿は手づくりのブランデーケーキに加えられるなど、しばらく楽しめそうだ。干し柿のあと、共同畑で穫れた八ツ頭の赤い茎の皮をむき、同じようにベランダで乾燥させて「ずいき」も作って保存した。これもイベント時、煮物、和え物、五目寿司などで楽しめることだろう。

# 里山に棲む鳥たち　（第３回）

横浜国大大学院環境情報学府博士課程　藤田素子




寒さに頬を切られるような早朝の空気に冬を感じます。控えめに鳴き交わす鳥たちもこの時期、群れを作るようになります。カラ類と総称されるシジュウカラ、エナガ、ヤマガラなどがその代表的なものです。これまでご紹介してきた猛禽類（大型）、ツグミ類（中型）などと比較して最も小さい鳥たち（スズメくらい）です。

シジュウカラは蝶ネクタイをして、グリーンの上着を着ています。オスのほうがネクタイが太く、太いほどメスにモテるとも言われます。繁殖期の3月ごろからツピツピツピとさえずりますが、冬は地味にシージージーと鳴きます。好奇心が旺盛で人なつこく、３ｍくらいの距離まで様子を伺いにくることも･･･なんとも可愛い仕草で人気があります。

エナガは１０～３０羽くらいで群れることが多いようですが、メジロ、コゲラなどと一緒にいることも（混群といいます）。シジュウカラよりも更に小さく、白いお腹にピンクと黒の背中、そして長い尾が特徴です。動きはすばしこく、双眼鏡に入れるのも一苦労。人に対して警戒心はあまりないようですが、仲間との交流に忙しく、中々こっちを向いてはくれません。寝ぐらでは面白いことが起こっているようです。２羽が寝場所となる枝に並んで止まると、次に来た１羽はその間に割って入り、その次はまた割って入り･･･、結局最初の２羽は両端になるそうです。群れの中の順位と関係しているのでは、という話もあります。寝ぐらは、つるなどが複雑に絡まった藪が多く、見つけるのは相当大変だそうです。日野にもエナガはいますが、さてどこで寝ているのでしょうか･･･。

ヤマガラは姿もさえずりもシジュウカラによく似ていますが、お腹の茶褐色が特徴です。やはり人になつきやすく、かつて神社ではおみくじを持ってくる役目をしていたそうです。ご褒美に麻の実がもらえるからです。

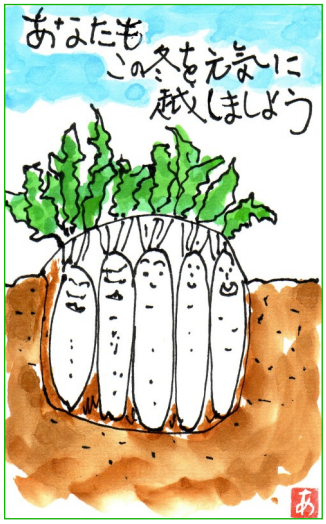
前回、植物の種を運ぶヒヨドリのことを書きましたが、彼らは果実を丸呑みして、中の種だけが糞と一緒に出てくるので、植物にとってはありがたい存在（種子散布者といいます）なわけです。ところが種子まで食べてしまう鳥（種子食者）もいるのです。例えばシメという鳥がそうです。カラ類と比べて太いくちばしを持っていますが、これで種まで割って食べてしまうので、植物は大迷惑です。シジュウカラよりも大きく太った体つきで、ピチッ、と鳥とは思えないような面白い声を出します。林の中で変な音がするな、と上を見るとシメがいるかもしれません。林の中は、冬も生命にあふれています。

# “大・根・讃・歌”

塙　明子（絵も）

私は太陽と土が大好きな農婦タイプなので、アリスの丘に出合えた事はとてもラッキーでした。初めから無農薬を志して、竹酢液をまき、老眼鏡をかけて虫を取りながら五年間野菜作りを楽しんできました。子供は可愛がり過ぎると駄目になると言われますが、野菜は手間をかければそれだけ応えてくれます。お陰で我が菜園の出来は及第点かなと思っています（失敗作もありー）。その中で優等生は大根で、特に秋作は手前味噌ながら好成績です。土作りと深耕は亭主兼小作人に任せ、私はマルチに開けた穴に１センチ置きに１０粒の種を蒔き、葉が伸びたら間引いてゆき、元気のいいのを一本立ちにします。間引いた葉っぱは味噌汁の具になり栄養満点です。

昨秋は共同ファームに我が大根の間引き菜を移植したところ、なんと無事に育ち、落ち葉掃きの時、手作りの美味しいビール漬けにもなりました。私の菜園では３０本程できたので友人に配ったりしたほか、一部を埋め大根（絵）にしました。元気に冬を越してくれることを願っています。冬来たりなば春遠からじ、そろそろ「♫ 畑が待ってるよー ♫」の季節です。




本来大根は移植しても育たないといわれてますが、塙さんのあまりの熱心さに応え、立派に育ったのにはびっくりです。（事務局）

## １・２月のイベント情報

参加する方は事務局までご連絡お願いします。

**１月１７日（土）**　雑木林の萌芽更新と梅の剪定

冬の定例作業。梅の剪定教室参加希望の方はお申し出下さい。お昼はあったか「三平汁」

集　合　１０時　第２緑地

持ち物　剪定はさみ、のこ等、バンダナ、手袋、おわん、箸

**２月２１日（土）**　キノコ植菌＋落葉掃き

作業の後はアウトドアカレーをどうぞ。

集　合　１０時　第２緑地

持ち物　バンダナ、手袋、皿、スプーン

## ☆☆☆☆☆　事務局から　☆☆☆☆☆

*☆あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。皆様のご多幸をお祈りします。*

*☆今年度のファームの運営については、２月上旬頃ご案内する予定です。ご協力をお願いします。*

セブン-イレブン みどりの基金